

令和3年(2021年)度 事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日)

認定特定非営利活動法人フードバンク信州

I 事業の総括

食品ロスと困窮者支援を目指すフードバンク活動の安定的、持続的な推進体制を整えることを目的に、企業や市民からの食品受け入れと要支援者への食品提供の見える化を図り、食料の循環を通して支え合いの地域づくりが広がることを目的に事業に取り組んだ。

2021年度は、コロナ禍による不安定な社会経済情勢と最近注目されるに至ったSDGs活動への目標も相まって、フードバンク活動に対する理解と多くの新たな支援を得るための礎となり、フードバンク信州の活動は年度当初の計画を上回る実績を上げることができた。

コロナ感染拡大が収束の兆しが見えない中で、経済的に逼迫する家庭が増加傾向が一層進み、フードバンク活動に対する期待と使命がますます増大した。ことに子育て中の世帯で子どもの食料が十分確保できないという状況が地域や教育現場で顕在化してきたことに対応し、2020年度に引き続き「コロナ対応子ども応援プロジェクト」を通して実施した。2021年度の年間延べ支援数は2,335世帯で、前年度の2.2倍となった。

コロナ禍における食料循環を進める活動を通して、企業や市民の皆さんから食料を寄贈し、困窮状態にある人たちの支援に役立てたいとの機運も高まりつつあることから、フードバンク信州では、このような食料寄贈の円滑化を図り、支援のニーズと効果的にマッチングするためのシステム構築を進めている。システム構築にあたり、企業関心と意識を把握するため、長野県内の食品関連企業の「フードバンク活動に関するアンケート調査」を実施した。一方で、支援者ニーズについては、困窮者支援団体のニーズ調査も進めている。長野県内の各地域において食料循環のネットワークが広がることを目指して事業を行った。

2021年度は、長引くコロナ化に対応し、食循環のネットワーク（地域プラットフォームを県内各地域に順次広げることを目標に、次の事業の柱に沿って事業を進めた。

① 食料の寄贈と提供のマッチングシステム構築による活動の推進

食料寄贈の増加とニーズ増加に的確に対応し、継続的、安定的に活動を進めるため、寄贈と提供のマッチングシステムの構築に取り組み、2022年度からの運用にむけて準備を進めた。

② 地域活動拠点の機能強化とネットワークの活性化

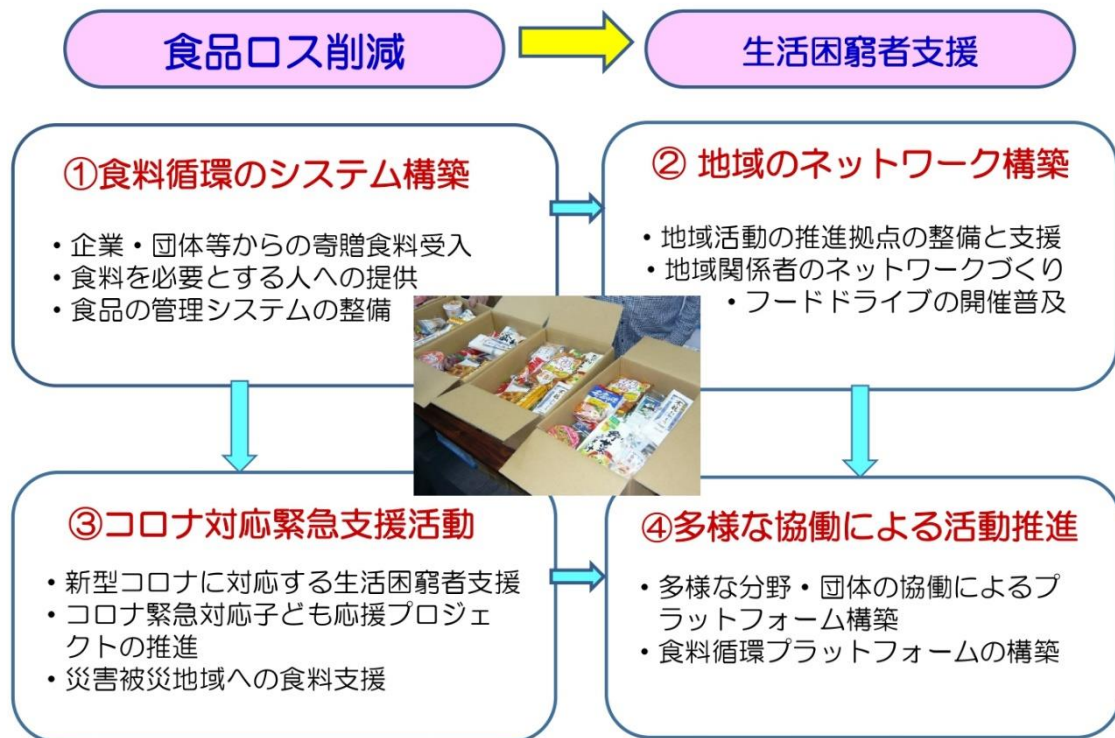
県下各地域において食料寄贈と食料提供を効率的に展開するため、地域活動の活性化及び強化を目指した。コロナ禍の影響で市町村社会福祉協議会や地域の困窮者支援団体が取り組む活動に協力し、地域ごとの活動拠点の定着を応援した。

③ コロナに負けない子育て世帯への食料支援

コロナ化で困窮に陥る子育て世帯の食料支援ニーズの増加が止まらないことから、子育て中の困窮世帯を対象に「コロナ対応子ども応援プロジェクト」を年間 6 回実施した。プロジェクトの応募世帯の状況を分析し、コロナと子育て世帯の貧困課題の把握と課題解決に向けて関係者への提言を行った。

④ 多様な協働による活動推進

多様な分野、団体による協働活動の推進を図る目的で、県や県社協と連携し「長野県フードバンク活動団体連絡会」を立ち上げ、県内統一フードドライブキャンペーンなど広域ネットワークによる協働活動に取り組んだ。



II 実施事業

1 寄贈食料の受け入れと提供

(1) 食料の受け入れ

2021年度の寄贈食料の総合計は、直接寄贈とフードドライブによる寄贈を合わせて4地域合計で80.6トンとなった。これは2020年度の実績の約1.5倍となり、コロナ禍の困窮者支援の活動の高まりを示している。特に10月以降の後半の寄贈量の増加傾向が顕著にみられる。

これは、コロナに対応して支援関係団体の意向により長野県が呼びかけて長野県フードバンク活動団体連絡会議を設置し、県内統一フードドライブキャンペーンを実施、県内全域に広報・周知を行った結果、食料寄贈の増加につながった。

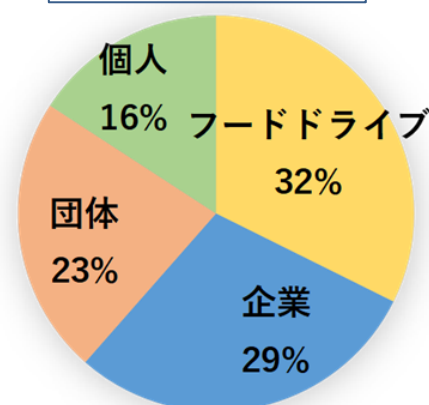
(P 参照)

【寄贈主体別実績】

寄贈主体は、直接寄贈分は、①企業、②団体、③個人のに分けて集計している。それにフードドライブの受け入れ分を加えて集計した寄贈割合は、右のグラフのとおりとなった。

2020年度に比較して、直接寄贈分は1.4倍、フードドライブ分は2倍となった。この傾向はだれでも困窮者を支援する活動に参加できる場としてのフードドライブが多様な形で広く開催されてきたことを示している。

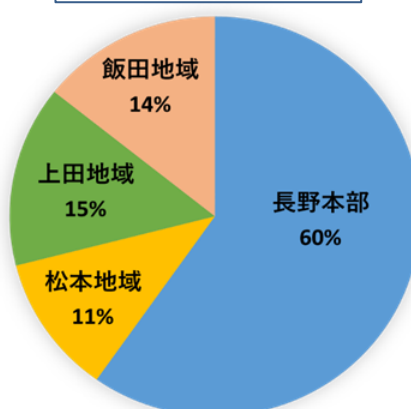
寄贈主体別受入重量比



【地域拠点別受入実績】

寄贈食品重量は、長野本部と松本、上田、飯田の各拠点の寄贈食品を合算した実績値である。地域拠点ではそれぞれフードドライブの定期開催と直接寄贈の食料を受け入れ、それぞれの地域のネットワークにより提供支援を行った。地域拠点では本部と連携しつつ地域ごとのフードバンクの役割を担っており、活動が定着してきた。

地域別受入重量比



【フードドライブ実施状況】

① 定期開催フードドライブ

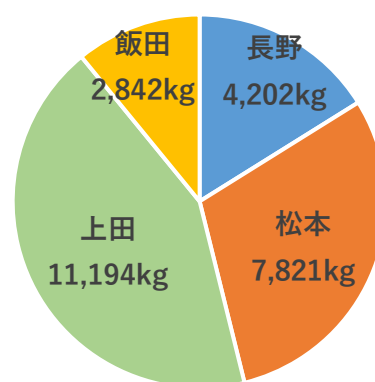
フードバンク信州が、県内で地域の行政、社協、団体等と連携して定期的に行っているフードドライブは、長野地域、松本地域、上田地域、飯田地域の4か所で毎月1回定期開催している。長野地域はコープながの稲里店、松本地域はワーカーズコープ松本事業所、上田地域は上田市社会福祉協議会、飯田地域は地球環境高校がイオン飯田店と連携して開催。年間17.6トンの食料が集まった。

② イベント開催フードドライブ

定期開催のほか、地域活動団体、企業内、労働組合、福祉活動団体などが、独自に企画開催するフードドライブも、コロナ禍の影響で開催回数が増加し、年間8.4トンの食料が寄贈された。また、長野県フードドライブ活動団体連絡会が主催のフードドライブ統一キャンペーンを3回実施し、県庁や地域振興局などにフードドライブの開催数も増加した。

定期、イベント開催を合わせた寄贈量は26トンとなり、2020年度の13トンからの約2倍となり、コロナ禍の困窮者支援への参加意識の高まりがうかがわれる。

地域別 FD 受入重量



(2) 食料の提供 (支援)

フードバンク信州本部が受け入れた食料の支援提供先は、右のグラフのとおり。

(※この内訳は長野本部の食料に限定したものである)

① 「コロナ対応子ども応援プロジェクト」

2021年度の食料提供の特徴は、コロナ禍のニーズ増加に対応して実施した子育て世帯に対する緊急プロジェクトの提供量が全体の45%と最も多かった。

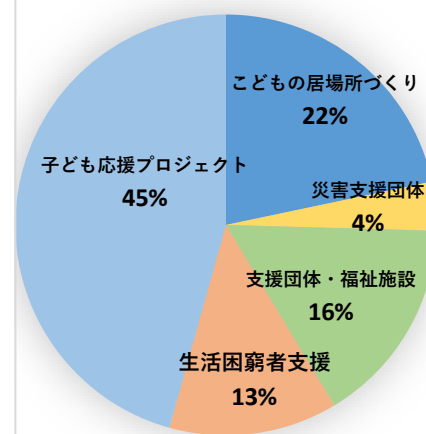
② 「子どもの居場所づくり支援」

通常、子どもの学習支援や子ども食堂などを行っていた団体が、コロナ感染拡大により1か所に集まっての支援が難しくなったため、支援が必要な世帯に食料配布を行う活動を行った14団体に対して食料を提供した。

③ 「生活困窮者支援」

長野県内の「まいさぼ」(生活・就労支援センター)の相談者で食料支援を必要としている世帯に対して長野県社会福祉協議会、長野市社会事業協会(ななせ仲まち園)

食料提供先割合



が行う生活困窮者食料支援事業と協働して食料の個別配送提供を行った。

④ 「困窮者支援団体・福祉施設等への提供」

困窮者支援を行っている民間支援団体や市町村社会福祉協議会などの活動についてもコロナ禍の影響で食料支援ニーズが高まり、28 団体に対して食料提供を行った。

2 食の循環システム構築事業

(※ 休眠預金を活用した民間公益活動事業)

長野県内の企業等における食品ロスの有効活用のため食品寄贈を推進し、寄贈された食品を地域支援ネットワークとの連携により困窮者支援につなげる食の循環システム構築をめざし地域の食の循環システムを構築する事業の2年目の事業を実施した。

地域における食の循環の仕組みとなるプラットフォームの構築をめざし、2023 年からの運用開始に向けて次のような活動を行った。

(1) 「フードバンク活動について」企業アンケート調査実施

食の循環システムの構築にむけて、食品関連企業のフードバンク活動についての参加意識と関心を把握するため、長野県内の食品関連企業を対象に「フードバンク活動について」アンケート調査を実施した。

- ・調査対象 県内18商工会議所に加入する企業のうち食品関連企業
(長野県商工会議所連合会の協力による)

調査依頼数 812 社

回答数 211 社 (回答率 26%)

- ・調査実施日 2021 年 10 月

(※ 調査結果は別添報告書参照)

(2) 食の循環システム検討会議開催

食品ロス削減と困窮者支援の活動を地域支援システムとして進める方法を検討するため、関係機関・団体等による第2回検討会議を開催した。

- ・日時 2021 年 11 月 25 日 (木)
- ・場所 長野市生涯学習センター 3F 第3学習室
- ・出席者 食品製造企業、長野県経営者協会、長野県社会福祉協議会、
長野県労働者福祉協議会、長野県みらい基金
長野県 (資源循環推進課、地域福祉課、次世代サポート課)、
- ・内容 食品ロス削減と困窮者支援を進める仕組み構築する食の循環システムについて、ことにコロナ禍において課題を共有し、食のマッチングシステムの内容について検討した。

・会議事項

- ① 食のマッチングシステムの構築計画について
- ② 企業の「フードバンク活動について」のアンケート調査結果について
- ③ 食料支援団体のニーズ調査の実施計画について

長野県内のまいさぼ相談者のニーズを分析する
(県社協、ななせ仲まち園との連携と協力)

3 コロナに負けない子育て世帯への支援

(※ 独立行政法人福祉医療機構助成金を活用した事業)

コロナ化で困窮に陥る子育て世帯の食料支援ニーズの増加が止まらないことから、子育て中の困窮世帯を対象に「コロナ対応子ども応援プロジェクト」を実施した

急激な環境変化により食料支援を希望する家庭から Web や FAX で直接申し込みを受け付け、各家庭に食品の詰め合わせを個別に郵送する方法で食料を送付、2020 年度は延べ 1,080 世帯に計約 9 トンの食品を提供した。

2021 年度もコロナ収束の兆しが見えず、ニーズが増加してきたため回数、内容を拡充し、プロジェクトを実施した。2021 年度年間の支援実績は、**2,335 世帯**に **19.3 トン**となった。

このプロジェクトに取り組むことによって企業や団体、市民の皆さんからの食品寄贈や寄付金など支援活動が広がってきた。また、プロジェクトに協賛するフードドライブの開催が広がり、県庁や地域振興局、県内各地域の関係団体などとの連携が進み、協力、支援の気運が広がった。

(※プロジェクト報告はP〇〇～〇〇参照)

4 多様な協働活動の推進

(1) 長野県フードバンク活動団体連絡会の設置

コロナ禍の影響で食料支援ニーズが増加している状況が続いている中で、長野県内の多くの地域において市町村社協等地域の支援団体が独自に食料の受け入れと支援活動に取り組む地域活動が広がってきた。このような情勢を受け止め、県内の活動団体が課題を共有した上で連携して効果的な活動を推進する目的で、フードバンク信州や長野県社会福祉協議会などの要請により 2021 年 9 月に長野県の呼びかけで「フードバンク活動団体連絡会議」を設置した。連絡会議には、フードバンクのほか市町村社協、長野県労働者福祉協議会、福祉施設団体など 12 団体が参加し連携活動を開始した。

2021 年度は協働活動として、10 月、12 月、3 月に県内一斉にフードドライブ統一キャンペーンを実施した。この取り組みによって、食品寄贈に対する企業や団体の活動参

加の気運が高まりつつあり、今後連絡会の協働活動を継続することによって地域のネットワークの拠点化につながることを期待できる。

(2) 広域フードパントリーの運営協力

コロナ禍に対応して県内各地域で食の助け合い活動への取り組みが広がってきたが、市町村域だけの活動では、支援食料の過不足調整に課題があり、広域で調整できる機能や拠点の確保が課題となってきた。

この課題を受けて、長野県社会福祉協議会と賛同する社会福祉法人が連携して、支援食料の確保と広域調整を行うための広域パントリー「むすびや」を、2021年6月、長野市内に設置した。広域パントリーは共同倉庫の機能も担っており、フードバンク信州も連携団体として活動に参加し、企業から大量の食品の寄贈を受けた時の第2倉庫として活用するとともに、支援食料の提供調整に協力している。

広域調整の機能を強化するため、フードバンク信州では、広域での食の循環をスムーズに行うためのマッチングシステムの構築に取り組んでいる。このシステムに多くの企業や支援団体が登録することにより、企業からの寄贈食品が増加し、支援団体の活動が充実し、地域における食の支えあい活動の広がりをサポートする運用を目指している。

(3) 「フレッシュフードシェア」のモデル的实施

フードバンク信州では、基本的に生鮮食品は扱っていないが、2018年に開催された「第3回松本市食品ロス削減連絡会」において「畑で捨てられている農産物を活用する仕組みを作れないか」という参加者の意見をきっかけに松本市行政を中心に関係者が検討を進め、地域の道の駅（今井恵みの里）が余剰規格外農産物を持ち込み、フードバンク信州松本拠点が受け入れ、子ども食堂などに提供する活動「フレッシュフードシェア」を2019年9月から開始した。毎月2回（第2・第4金曜日）実施。協力農家から規格外農産物などが持ち込まれ、商品化できない食品が流通することからロス削減につながっている。

フレッシュフードシェアの実施により、地元の行政、販売事業者、生産者、利用団体などの地域の協働体制が構築され、農産物の循環システムモデルとして評価できる。生産者の農家にとっても、農産物を無駄にせず役に立てる活動に参加する機会が生まれ、社会貢献意識の向上にもつながり、新たな協働モデルとして今後他の地域への普及の検討が課題といえる。

Ⅲ 運 営

(1) 会員の構成

2022年4月1日現在

	団体	個人	合計
正会員	22	20	42
賛助会員	52	24	76

(2) 理事会

第1回 2021年5月11日 もんぜんぷら座 302会議室

- ・2020年度事業報告(案)について
- ・2020年度決算報告(案)について
- ・2021年度事業計画(案)について
- ・2021年度活動予算(案)について
- ・役員変更について
- ・2021年度通常総会の日程について

第2回 2021年10月25日 もんぜんぷら座 302会議室

- ・長野県フードバンク活動団体連絡会議について
- ・食の循環システム構築について
- ・メディア等との協賛企画について

第3回 2022年3月22日 もんぜんぷら座 302会議室

- ・2022年度事業方針について
- ・休眠預金活用事業と企業のプロボノ連携について
- ・2022年度総会について